

# 令和5年度第1回埼玉県立近代美術館協議会会議録（抄録）

- 1 開催日 令和5年8月24日（木）
- 2 時間 午後2時00分～午後4時00分
- 3 場所 埼玉県立近代美術館3階会議室
- 4 出席委員 秋本文子、森田 豊、寺久保文宣、山田明子、岡野啓子、青木聖吾、井口壽乃、代田一貴、關谷宏之、野中味恵子、山田志麻子、吉野 律
- 5 欠席委員 なし
- 6 事務局出席者 

館長	建畠 哲
副館長	藤倉陽子
担当部長	栗林雅志
主席学芸主幹	平野 到
主任学芸員	吉岡知子
総務担当課長	宮田美香
総務担当主任	佐藤耕史

## 7 進行の概要

- (1) 開会
- (2) 館長挨拶
- (3) 委員紹介
- (4) 事務局職員紹介
- (5) 会長、副会長選出  
会長に井口委員、副会長に森田委員が選出された。
- (6) 会議録署名委員指名  
会長から署名委員として秋本委員、寺久保委員が指名された。

## 8 議事の内容と質疑応答

### (1) 報告事項・意見

#### ア 令和4年度事業報告

事務局から会議資料及び映像を使用して、常設展示事業、企画展示事業、美術作品収集事業、一般向け普及事業、美術館の利用促進事業、子供向け事業、学校との連携、ボランティア活動、「椅子」の有効活用、一般展示室の利用状況、入館者数、決算の概要について報告を行った。

#### 【主な質疑応答等】

委員 「MOMAS (モマス) コレクション」のMOMASとは何か。

事務局 常設展という名前の呼び方だとやや名称が固いということもあり、親しんでもらうためにニックネームのMOMAS (Museum of Modern Art, Saitama) を掲げて「MOMAS コレクション」としたものである。分かりにくくて大変申し訳なかった、どこかで説明できればよかった。

事務局 皆様、展示事業などを御覧になっている方も多いと思うので、印象などをお聞かせいただけると今後の参考になってありがたい。

委員 戸谷成雄氏の作品の展覧会を拝見した。事務局からも説明があったように初期の作品から作家の原点を知ることができるすごく良い展示だった。

説明を受けて初めて知ったが、(巡回展の共同開催である) 長野(県立美術館の展示)とは違う視点で、埼玉で構成し直すというのは、巡回展とは言え、同じものがずっと出ているわけではなく、土地々々の学芸員の考え方や作家との関わりなど、特徴を持って展開できる素晴らしい企画だったと感じた。

委員 開館40周年記念展が素晴らしかったと感じた。私達は今の美術館しか知り得ないが、歴史を踏まえて改めてこの美術館の底力を認識させていただいた。

また、初期の展示のコンセプトなどを知ることで見方が変わったという意味でも新鮮でありかつ重要な展覧会だったと拝見して感じた。

委員 今年ではなく昨年、もしかしたらコロナの時期だったかもしれないが、埼玉県の作家を紹介する企画展があり、展示名が出てこないがそれを拝見した。

事務局 「埼玉の美術史」という展示だと思う。

委員 「埼玉の美術史」はユニークだった。我々は通史が分からない。埼玉に限定したものだったが、近代美術館ということ踏まえて、西洋の近代でも、日本の近代でも構わないと思う。美術館はコンテンポラリーに寄っているところがあるが、県民の皆様に漠然とした流れでも良いので、どのように繋がって行くのかが見える展示が、毎年とは言わないが数年に1回くらいあってもよいと思う。

事務局 「埼玉の美術史」という展覧会は、本来、「県展」を開催する期間だったが、コロナ禍で搬出入が混み合うと感染の恐れがあるため県展を中止することになり、代案として県展主催者の県（文化資源課）が企画・開催したものである。

委員 ワークショップ（ミュージアム・キャラバン）については、今年はこれから始める予定。今までやってきて、こちら側から働きかける感じが強いので、実施した学校などの言葉が聞けると、リアリティを持って作家としても関わっていけると思う。リアルタイムでそういう息吹を感じてやらないと、こちらが働きかけるだけだと、ワークショップとして死んでしまうと思う。自分自身の関わり方を含めてコンセンサスを取ってやっていければと思う。

## イ 令和5年度事業実施状況

事務局から会議資料及び映像を使用して、常設展示事業、企画展示事業、美術作品収集事業、一般向け普及事業、美術館の利用促進事業、子供向け事業、学校との連携、ボランティア活動、「椅子」の有効活用、一般展示室の利用状況、入館者数、当初予算の概要について説明を行った。

### 【主な質疑応答】

委員 企画されている横尾龍彦氏について存じ上げていなかったが、今、秩父にアトリエをお持ちなのか。

事務局 90年代から秩父にアトリエをお持ちになっていた方だが、今はお亡くなりになっている。

委員 先日飯能にあるギャラリーで学芸員の方から質問があって初めて横尾氏を認識した。今の季節は暑い時期で学校も休みだが、知り合いのお世話になった方がやはり興味を持って展示を見ていた。こういう時期にこういった渋いというか、なかなか珍しい作家の作品を展示しているのは美術館しても面白いと思う。

事務局 横尾氏はドイツに行かれ、日本とドイツを行ったり来たりして活動された方である。一定の年齢に達してからは、できるだけ後進、次の世代に何かを伝えたいということで、自由大学という組織も立ち上げた。そこに同時代の作家と一緒に何かできないかと模索された、ということも図録の中で少し触れているので、お時間があれば御覧いただきたい。

委員 (ルドルフ・) シュタイナー系統か？

事務局 精神世界との交感ということを重視された方である。ご本人も鎌倉で禅の修行をやったり、シュタイナーに触れたりして、人間の意志を超えた中で何か制作ができないかということを探られた。制作風景の映像の一部を展示室で流している。

委員 少し教えていただきたい。資料38ページの当初予算の概要のところだが、令和4年度の当初予算と先ほど説明のあった23ページのところの決算の概要と比較すると相当金額に乖離がある。これは当初予算があって、その後、追加予算が多くあった中で決算が変わっていくという風に考えればよいのか。

また、その中で教育財産管理費という部分が、決算と予算でかなり金額が変わるので、どういったところが変わったのかもあわせて教えてほしい。

事務局 予算によっては、かなり余ることが予想されると、補正予算を組んで返すことがある。そこで大きく金額が変わってしまうように見えることがある。教育財産管理費は、工事費が付いた場合に急に金額が上がることもある。そうした理由で金額が変わる。

委員 彫刻ボランティアの話をたくさんしていただいた中で、ボランティア全体に対して大切にしてくださっているなど感じている。やはり美術館は美術館だけでは成り立たない。地域やボランティアなどにきちんと目を向けてくださっているのは非常に評価できることだと思う。

委員 40周年ということで、ちょうど私も大学に入りたての頃、新築間もない頃から見続けてきて、今日改めて拝見したところ、木も非常に大きく成長していて、美術館はもちろんだが、それを含んだ公園の管理というのはなかなか大変だろうと感じた。

予算の中でも触れられていたが、公園全体の管理ということで予算配分がされているということによろしいか。

事務局 樹木選定も警備もあるし、清掃の一環で草刈りなどの予算も付いている。そういった予算を活用しながら、木の状態などを見ながら選定や草刈りを行っている。

委員 地方の美術館を回っていくと、美術館の収蔵作品や建物、内部の作品、事業ももちろんだが、美術館が持っている全体の雰囲気や周辺の管理というのも非常に大事だろうと改めて感じた。この美術館の場合、地域の方々が日常的に公園として利用されている姿をよく見るし、アートが生活の一部になっているような感じに見えるので、ぜひその辺りの管理については今後も大事にしていきたい。

色々な形で引き込みながら地域で育てていく美術館があるといいなと改めて感じた。

館長 この美術館は公園型の美術館でありながら駅前型でもある。非常に理想的な条件となっている。

ご存じかもしれないが、6～7年前に樹木をかなり伐採した。時代に逆行するように感じられるかもしれないが、これまでは鬱蒼とした森の中に美術館があり、奥が見えなかった。ある程度伐採して、芝生と広場と美術館となり、環境的には開放感が生じた。公園に来る人の一部は、木を切ることに抵抗感があつた。でも、結果的には喜んでいただけた。

将来的な課題としては、公園型の美術館として、公園を美術館が管理している限りそれを活かしたいと思っている。もちろんある程度は任されているが、我々も予算要求をしているがなかなか付かない。完全に彫刻庭園にしてしまうと、子供たちなどに逆に親しまれなくなってしまったので、うまく調和しながら、将来的には彫刻庭園としても活かすようなことが目標である。

委員 ぜひ実現させていただきたいと思う。同時に台風や気象条件も変わってきていて、大きな樹木は台風が来ると心配な部分も大きいと思う。発展的な交渉をしていくということも必要だと思う。学校でも今、同様の課題を抱えている。ぜひ進めていただきたい。

委員 まず1つ目、コロナ禍以前に戻ったということで大変良かったと思う。

2つ目、説明を伺っていて、企業や他の美術館との連携事業をすごく工夫されていて素晴らしいなと感じた。館としての努力や意気込みが伝わってきて、ぜひ県民の皆様にも知っていただきたいと思う。

ただ、周囲の方に意見を聞くと、なかなか伝わっていないのではないかとと思う。このあと、博物館評価のところでSNSを使った広報が前年度のコロナ禍よりアップしているという評価を見て、SNSを続けていただきたいと思う。

私の周りの方の生の声を2つ紹介させていただきたい。1点目、私は、家庭教育振興協議会というところで活動しているが、アドバイザーが県内に多数いて、今度9月第1日曜日に研修会をこちらの美術館で行う予定。やはり子連れで来ると、壊すとかうるさくしてはいけないとか、敷居が高いところがある。今の保護者の方はSNSなどをよく見ているので、何か面白い発信ができるといいかなと思う。今度の3日の日にもこんなにウェルカムしてくれているんだということを強調したいと思う。

2つ目としては、その打合せの際に夫に運転させてここまで来たことがあるが、その時に美術とは全く縁のない夫だが、招待券を渡したら、「いいな、また来たい」と言っていた。その際に私が感じたのは、第1歩、第1回目をクリアすればまたリピーターが増えるのかなと思う。駐車場もあつたらいいとか、疲れるのでどこかに休める椅子がほしいとか。椅子は座ってよいと伝えたが、壊してはいけないからと言っていた。来てもらうための第1歩をどんな風に工夫するのが良いのかなというのを、生の声として紹介させていただいた。

本当に大変な努力をいただいて、館としての意気込みもすごいなと感じた。どうぞ頑張っていたいただきたいと思います。

事務局 補足として、当館は椅子の美術館ということで親しみをいただいていたが、コロナ期間は接触感染のことも言われていたので、傷んでしまうため椅子を消毒することもできず、コロナ期間の5類移行前は、見るだけにしていた。5類に移行してから、実際座れる形に戻した。夏休みに利用者が増えた理由の一つは、そこにもあるかなと思っている。子供たちが来てデザインの椅子に座ったり触ったりすることもできるので、親しんでいただくことができる。それがやはり美術館の敷居を低くする一つの手段として重要だと思っている。そのあたりを積極的に発信していきたいと思う。

## ウ 博物館評価について

事務局から会議資料を使用して、令和4年度の評価結果について報告を行った。

### 【主な質疑応答】

委員 (資料2-1 2. 全館共通項目チェックリストの「資料の保存管理」⑤) 収蔵資料の清掃・修理等を適切に行っているかという項目がBの評価だが、実情を存じ上げないのでよく分からないが、例えば資金面のことなのか、資金があつたとしてマンパワーがないのか、その辺をお聞きしたい。

もしマンパワーということであれば、例えば地域でも高齢化率が高くなって、元気なお年寄りがいる。そういった面でボランティアの力を借りるといったことが可能なのかどうか、今後お考えかどうかについてお聞かせいただ

きたい。

事務局 これは簡潔に言うと、修復をしなくてはいけない資料がかなりあるが、1点1点の予算がこちらの予算の中で処理できなくなるとどうしても先送りになってしまう。金銭的な問題。我々としては早く修復して、収蔵庫に眠らせるだけではなく、展示をすることによって作品として活用したいと思っている。なんとか外部資金、時には助成金なども活用しながら進めているが、そこがうまく調整できていない。

委員 何とか作品を世に出して、たくさんの人に見ていただきたいと思う。

事務局 もう一つの要因としては、実は、当館は最近基金活用ができていなくて、購入するのは難しいが、反面、御寄贈に関しての非常に良いお話しがここ数年続いてきている。御寄贈に関しては、作品の状態が必ずしも完全な保存状態ではないが、修復すれば素晴らしいものになるといったものもある。作品としては重要なものだが、修復をしなくてはいけないものが入ってきている状況にある。

委員 修復するという技術というのはやはり専門家でないと無理なのか。

事務局 そうですね、美術館によっては、修復技術を持っているスタッフが常駐している美術館もある。理想的にはそういう形に持っていきたいと思っているが、残念ながら我々の美術館には保存修復の担当者がいないため、外部の信頼できるところに依頼して、修復をしていただくという形をとっている。

委員 本日、色々な数値やチェック項目をお見せいただき、どこの企業・組織も非常に大変だなと思う。

教えていただきたいのは、この中で最も重要視する数値及びそのチェック項目、それに対してどのようなアプローチをなさろうとしているのかというのを、私も持ち帰って参考にしたいと思っている。お聞かせいただければと思う。

事務局 非常に的確なご質問をいただいた。皆さん見ていただくとわかると思うが、令和4年度の評価シートから令和5年度の評価シートは若干体裁を変えている。これは、令和4年度までは、ABCをつけて数値だけを見ていくような評価シートだったが、そうするとどうしても数値やABCだけに捉われてしまう。もう少し大きな目標を見ながら美術館あるいは博物館の立ち位置の検証が必要ではないかという議論があり、令和5年度に関してはそういった細かい数値の前に、資料13ページにあるように、美術館の使命・ビジョンの下

に現状分析と課題の抽出があり、その下に中期重点目標として①～⑥を挙げている。これらを大きな目標として、中期的に目指していきましょうということになった。逆に、数値の目標に関しては、定期的な自己点検として確認していこうとなり、方向転換を図ったという実情がある。

委員 簡潔に意見として申し上げる。コロナ禍において、目標値を設定し、しっかりと PDCA サイクルで達成していただいている姿をこの評価から受け取って、大変な御苦労がある中、感謝申し上げる。

その上で、次代を担う子供たちの感性や想像力を深めるということで、子供たちへ生のものを届けて感動する、心震える体験やら、それを育てる教員がしっかりと美術の良さが分かったり、そういう形でぜひ今後も学校と連携する事業を継続していただくことをお願い申し上げる。

委員 前の議題の時に、副会長の方から美術館の景観というものが「いい感じ」になって行けたらという話があった。具体的ではないが「いい感じ」というのは非常に大事な考え方だと思う。先ほど館長からもそういったことを長期的にやっていきたいというお話しがあり嬉しく思った。

木を切るという話をしているが、今の公園のスタイルはかなり区切った公園の形だと思う。たぶんこれからの若い造園の方とかはもっと「いい感じ」というのが更に進んでいるのではないかと考える。

これからの方たちが公園で休みたい風景の場所とか、たぶんもう出てきているかもしれない。

アートをやる際に、屋外で大型の液晶パネルで何かやるイベントと植栽や風景との絡みというのも考えられるとイメージする。

でも、きっと予算がないと。できるか分からないが、せっかくだから公園、噴水はもう使ってませんか？ですから問題ないですよ？あそこの地下に駐車場を作ったり、これは美術館の枠を超えるが、県や国と連携して都市計画のコア（核）に美があるというのは、これからは非常に大事だと思う。これまでは利便性や生活のしやすさがあったかもしれないが、これからは文化的な美しさや芸術性などに集まってくるとか、ここは立地も良いと思う。ここが埼玉のそんな美術館になるといいと思う。以上、意見です。

委員 本日は本当に私が勉強させていただいているみたいになって、県立館の活動内容を参考にさせていただきながら、また皆さんの意見も自分の館が言われているみたいな気持ちで聞きながら反省しながら、これも活かせたと思いながら聞いていた。

同じ美術館なので細かい質問はたくさんあるが、2つお聞きしたい。

まず1つ目が、県立館なのでアンケートなどとかで、県民がどれくらい来ているのか統計で出ているか。もし分かれば、だいたいでもいいので教えてい



ただきたい。

事務局 常設展と企画展でアンケートを取っており、アンケートに答えた方について、県内をいくつかの地域に分けてどのくらいかというのは統計を取っている。ただ、来館した方には取っていない。統計の結果については、確認するので少しお待ちいただきたい。

もう少し時間がかかるので先にもう一つの質問をお願いしたい。

委員 もう一つの質問も素朴な疑問だが、彫刻ボランティアが令和4年度はコロナで中止になるなどなかなか活動ができなかったと説明があったが、その場合、彫刻のメンテナンスは職員が行っているのか。

事務局 彫刻の洗浄は、学芸員職員に加え、学芸員実習でも実施し、あわせて年3回程度行っている。それに加えて彫刻ボランティアの方に関わっていただく、子供たちと一緒に彫刻を洗う活動を年2回から4回行っている。

委員 ボランティアや学芸員実習を絡めながら、年間にやるべきメンテナンスは何とか1年間で終わらせるようにしているということか。

事務局 そのとおり。(先の質問について) 戸谷成雄展に関して言うと、アンケート回答者のうち、埼玉県内から来ている方は約60%程度である。

委員 学術的な立場で2点ほど。項目にもなかったので、カタログ(図録)について質問したい。

昨年度の戸谷成雄の展覧会の図録は、素晴らしい力のこもった立派なカタログだったと思う。今回のものは、巡回展ということで、色々作られていると思う。カタログは、一つには学芸員の方の研究の成果・発表の場でもあるので、最近は図録が一般書籍として出版社と協力して制作されることがあるが、こちらの館としてはそのような一般書籍化する構想はないか。

事務局 例えば、戸谷成雄展は一般書籍として出している。図録を単独で美術館が刊行し、あるいは巡回展の参画館が共同で刊行した場合は、書店では流通できないが、出版社とお話しがうまくまとまった場合は、一般書籍として流通させている。

一長一短で、話がうまくまとまる時もあるが、やはり一般書籍として流通となると色々な条件がついてくる時がある。例えば、日本で流通するなら英訳はいらないのではないかとか、そういったことを条件にする出版社もある。

形状にしてもあまり大きな形状だと書店に置くことが難しいので、版型をもう少し小さくして欲しいなど、色々な条件がある。そういった条件がうま

くまとまった時は、出版社と一緒に刊行することがある。

委員 もう1点は、個人的な関心だが、来年2024年がシュルレアリスム宣言からちょうど100年にあたるので、色々な館で「シュルレアリスム」や「日本とシュルレアリスム」などの企画があると伺っている。こちらの館では何かそういった取り組みの予定があるか。

事務局 全く頭から抜けていた。大変有意義な情報をいただきありがたい。企画展に関しては、来年のラインナップは色々決まっているところがある。常設展に関しては、これから色々ラインナップを考えることもあると思うので、ぜひ何か考えたい。

(以上)